<table>
<tr><td>科目区分</td><td colspan="2">専門分野</td><td>科目番号</td><td>1410</td><td>曜日時間</td><td></td></tr>
<tr><td>授業科目</td><td colspan="6">母性看護学実習</td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>２　単位</td><td>時間</td><td>９０　時間</td><td>開講時期</td><td>３年次</td><td>授業形態 臨地実習</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td colspan="6">森岡　弓恵</td></tr>
<tr><td>授業目的</td><td colspan="6">看護の対象を母性の視点から理解し、対象が健康を保持増進し、新しい役割を獲得していくために必要な看護について学ぶ。</td></tr>
<tr><td>中核</td><td colspan="6">命の誕生を支える援助</td></tr>
<tr><td>授業目標</td><td colspan="6">１．母性各期にある対象とその家族の適応の過程を理解する。
２．母性各期にある対象とその家族の健康課題に応じた看護について理解する。
３．地域社会における対象とその家族への妊娠期からの包括的な継続看護の必要性について理解する。
４．対象や家族との関わりの中で、生命の尊厳や親になることへの意識を育む。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">授業の内容と方法</td><td>日</td><td>授業内容</td><td>授業方法</td><td>時間</td><td>担当</td><td>備考</td></tr>
<tr><td>12日間</td><td>1．母性各期にある対象と家族の適応過程における看護の役割
1）各期の生理的変化と特徴の理解
2）新しい家族を迎える妊婦と家族の心理・社会的変化と看護
3）健康保持のためのセルフマネジメント
4）日常生活とセルフケアを支える看護
5）母親になること　母子相互作用
6）対象に応じた母乳育児を促進する援助

2．地域での子育て支援、切れ目のない母子への支援

3．母性における多様な価値観、地域の特性やニーズを充足する看護

4.異なる母性看護の場のそれぞれの役割や機能

5.対象の状況に応じた集団健康指導
（模擬マザークラスの運営）

6．保健・医療・福祉の連携と看護の役割・継続看護

7.地域で活用できる母性に関する制度・施策・社会資源

8.体験した母性看護を通して親になること、生命観の構築</td><td>臨地実習</td><td>90</td><td>担当教員</td><td>保健センター64時間

助産院
20時間

実践活動の場以外の実習
6時間</td></tr>
<tr><td>事前課題</td><td colspan="6">実習要項を熟読し、必要な内容について自己学習を行っておく（知識と技術）</td></tr>
<tr><td>評価計画方法</td><td colspan="6">詳細に関しては実習要項を参照</td></tr>
<tr><td>テキスト参考図書</td><td colspan="6">・森　恵美他著：母性看護学概論〔１〕・母性看護学各論〔2〕医学書院
・小林泰江他編：ナーシング・グラフィカ①②③　　　メディカ出版
・病気がみえるvol.10　産科　　　　　　　　　　メディックメディア　その他適時提示する</td></tr>
<tr><td>実務歴有</td><td colspan="6">看護師・助産師：病院勤務　16年　　看護教員：学校勤務　５年</td></tr>
<tr><td>講義への反映</td><td colspan="6">看護師としての経験を活かし、状況に即した実習を展開する</td></tr>
<tr><td>備　考</td><td colspan="6">学内実習（実践活動の場以外の実習）の詳細に関しては実習要項に記載あり</td></tr>
</table>